

平成25年度 第4回 地域のしくみづくり検討・検証懇談会会議録

○ 日 時 平成26年3月20日(木) 9時30分～11時30分

○ 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

○ 出席者 座長 関谷 昇 大塚 清一
文入 加代子 平川 茂光
恩田 忠治 荒 久美子
岩橋 秀高 榎本 孝芳
島尻 武雄 星 典子
(欠席 長江 曜子 原田 光治 吉岡 俊一)

○ 傍聴者 7名

○ 事務局 市民部長 小沢 邦昭 市民部 審議監 伊藤 智清
市民部 参事監 戸室 文男 市民自治課長 平林 大介
市民自治課専門監 向後 文大 市民自治課 富川 玄規
市民自治課 天野 武彦 市民自治課 染谷 寛之

- (配布資料) ●次 第
●地域のしくみづくり検討・検証懇談会名簿
●小金地区・馬橋地区での意見交換会に関する資料

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(平林課長)

皆様、おはようございます。

本日の式次第3.(2)「これまでの経過について」②「小金地区・馬橋地区での意見交換会について」から進行していきますので、日時等のご案内をさせていただきます。あとは、小金地区長と馬橋地区長から経過報告をしていただきます。お手元の資料にありますように、風景のカラー写真と名簿がございます。平成26年2月18日に、「第2回 小金地区 意見交換会」がありました。また、平成26年2月21日には、「第1回 馬橋地区 意見交換会」を開催いたしました。小金地区では、2回目ということもあり、小金地区の地図をもとに、1班8人で地域の好きなところや魅力について、意見交換会がなされました。馬橋地区では、11団体の方が、団体の紹介や地域活動の状況等、意見を出されておりました。それでは、その概要・状況等について、小金地区の大塚会長からご説明させていただきます。

(大塚氏)

ただ今、お話にありましたように、平成26年2月11日に「第2回 小金地区 意見交換会」を開催いたしました。団体としましては、25団体に声をかけまして、1～2人に参加していただき、4ブロックに分けて、小金地区の良さについて話し合っていたいただきました。例えば、小学校の関係者だけを同じブロックに集めるというのではなく、4つのブロックの中には、小中学校、消防署、警察、そして社会福祉団体を含めて、話し合っていたいただきました。それぞれが携わっている仕事の中だけでなく、それ以外の分野でも、関心のあることについて自由に発言していただく場として開きました。そこでは、「これからの小金はこのようにしていこう」といった、前向きな意見が多く出ました。ご存知のように、小金には、歴史・文化が多数あります。古代から中世・近世、現代も含めまして、さまざまな動きがありました。その中の1つに「小金ロマン」として、講演会などを行っています。この講演会は非常に人気があり、120人収容の小金市民センターでの開催に対して、実際には、約180人以上の参加申し込みがあり、先着順になるほどでした。

特に、顕著な動きとして出てきているのは、小中学生の子供たちが、小金地区で行われる多くのイベントに、お手伝いや競技への出場といった幅広いかたちで、たいへん積極的に参加してくれていることです。こうした意味では、子供たちと地域との交流が、年々深まってきています。

私は、社会福祉協議会の仕事を始めて4年になりますが、社会福祉関係の事業展開は、以前はお年寄り中心のものでした。しかし、3年前からはそれを変え、子供たちとの事業を広げております。その中の活動には、花を媒体としたものがあり、これは、種から育てた花をプランターに植え、主に公共施設に設置していく作業で、現在、小金小学校と殿平賀小学校の子供たちが地域の人々と一緒に行っています。こうした話は、保護者も参加している意見交換会の場でも「地域にはこれが足りない」などの声をいただき、地域住民の方々からの協力を仰いでいます。また、小金地区の街づくりの基本は歴史文化にあるという点から、私が考えているのが、子供たちの国際ガイドです。現在、松戸市では、戸定歴史館を中心に、子供たちの英語による観光ガイドを充実させていこうとする話が出ているそうです。小金地区にある3校の中学生と、小学校は5年生以上の子供たちに、学校での教育とは別の実践教育というかたちで、平成26年度に向けて行っていこうとする動きがあります。現場には、子供連れの外国人観光客もいますし、小金を宣伝すると同時に、子供たちの学習にもなるということで、教育委員会に話をしています。これも、しくみづくりの一環と捉えていまして、今後、具体的にアクションプランを作っていきたいと思っています。小金地区には、小金中学校・小金北中学校・小金南中学校の3校の中学校があります。小金地区の3つの中学校を中心として、主に英会話を通して現場での交流を深めて、子供たちが学習できる環境を取り入れようとする話になっています。それに加えて、以前から私が言ってきたのが、ホームステイです。特にヨーロッパを考えていますが、平成26年度に現地2か所へ行く予定でいます。現在、4人の大学の先生が、さまざまな情報を提供してくれていますので、1度現地を視察して、子供たちのホームステイの場を作るということが、大事ではないかと思っています。今後、第3回以降の意見交換会の中では、そういった点も取り上げていこうと考えています。よろしくお願ひします。

(平林課長)

どうもありがとうございました。それでは、馬橋地区の恩田会長、お願いいたします。

(恩田氏)

馬橋地区は、お手元の資料にありますように、平成26年2月21日に「地域のしくみづくり意見交換会」を開催しました。地区内で活動している団体が多数ある中、今回は、20団体の方々に案内状を渡しました。当日、先ほどご報告にありました、11団体の方々に参加していただきました。担当の方から仕組みづくりについて説明していただいた後、参加者それぞれに自己紹介をしていただきまして、その後、それぞれの団体取り組んでいる内容等とともに、抱えている問題等も、お話していただきました。その中には、非常に問題を抱えている団体もありまして、そういった内容をお話していただくと、立場は違うけれども、切迫した問題を聞いた他の方々は「なんとかしてあげたい」という気持ちになるといった流れがあり、第1回目の内容としては非常によかったと思っています。また、参加者には、仕組みづくりについても概ね、受け入れていただけたように感じましたので、地区として、ぜひとも前向きに進めていきたいと思い、皆さんにご協力をお願いしたところです。先駆者である小金地区に引き続いて、第2回目には、一歩進んだ内容で展開したいと思っています。名簿を見ますと、馬橋地区内には60団体があるので、少しずつ話を進めて、少しでもご協力いただければありがたいと思っています。馬橋地区からは、以上です。

(平林課長)

どうもありがとうございました。2地区の意見交換会について、何かご意見やご質問等、ございますか？

(榎本氏)

私は、馬橋地区の意見交換会に参加させていただきました。さまざまな団体が集まると、それぞれに課題はあるものの、全体としては、非常に前向きな印象を受けました。小金地区のお話の中で一番すごいところは、学校と連携している点です。私たちは行政と一緒にさまざまなことを行っていますが、学校と一緒にやりたいと言っても、実際、教育委員会に通してもなかなか動いてもらえないことがありますので、それを進めている点が素晴らしいと感じました。もう1つ、小金地区が先進的で素晴らしいところは、地域の皆さんから小金地区の魅力を伺ったことです。意見交換の中で、実際には課題も出てきますけれど、やはり、最初から課題ばかりを取り上げるのはいけません。地域に愛着を持ったやり方をとることによって、もちろん、課題は解決しなければいけません。自分たちの地域には素晴らしい資源があること、素晴らしい人たちがいることを、感じてほしいと思います。こうした点においても、「小金ロマン」は、たいへん素晴らしい名称だと感じています。

馬橋地区についてとてもよかったと思うのは、地域との関わりを大事にしているところです。馬橋地区は、地域のボランティアを掘り起こして、ボランティアの助けがほしい人と繋ぐという点において、松戸市でも1番実績を積んでいるのではないかと思います。馬橋地区での

意見交換会に集まった方々からは、防災関連は、はじめに取り組みやすいのではないかとの意見が出てくるなど、意見交換会は非常に有効だったという印象です。

小金と馬橋の2地区の事例を聞いて、非常に前向きで有効な意見交換があり、とてもしっかりした活動があると感じました。以上です。

(向後専門監)

ありがとうございます。では、荒氏お願いします。

(荒 氏)

私は、平成26年2月18日の小金地区の意見交換会に出席させていただいたのですが、小金地区のいいところをグループで出していく中で、さまざまな立場の方が来ていて、お互いのよく知っているところや、知らなかったところへの気づきがありました。それだけでも十分よかったですと思います。さらに、そんなに素晴らしいところがあるなら、他の人に知らせてあげたいと感じました。皆でそれぞれ話した中で、当然、いいところだけではなく、課題も出てきましたが、「その課題には、自分ではこのような形で協力できる」というような話も出てきました。取り組みから課題解決の話へ繋がっているということ、とても強く感じまして、「これからこういうことをしなくてはいけない」と肩に力を入れずに話をする中で、いろいろな気づきや今後の方向性などが自ずと出てきたという点からも、やはり、小金地区の意見交換会が行われたことは非常に素晴らしい、と思います。

(向後専門監)

ありがとうございました。その他に、お気づきの点やご質問等がありましたら、いかがでしょうか。

(榎本氏)

意見交換会の中でもたくさん出てきましたけれども、やはり、会議だけで終わらないということ。予算がかかるようなすごいことはできませんけれども、できる範囲のことを協力してやっっていこうといった、具体的な行動が大事だという話が出てきたことも、皆さんにお伝えします。できれば、来年度中にでも、会議で出た話のいくつかを実現させて、そうした小さな成功体験の積み重ねで「皆が集まれば、こういうことが改善される」ということを積み上げてほしいという意見がたくさん出ていました。

(向後専門監)

馬橋地区での報告の追加ということですね。それでは、文入氏お願いします。

(文入氏)

組織的な話ですけども、地区の意見交換会は、市政協力委員連合会の中で、まずこういう話題が出て、それで手挙げ方式でなされたものですね？

(向後専門監)

事務局から説明いたします。意見交換会は、馬橋地区と小金地区での開催でしたが、呼びかけ人として、地区長と市民部長の二方からの呼びかけで開催したわけでございます。その呼びかけの中では、地域で活動している団体の代表の方々に声かけをしまして、まずは、地区長から呼びかけができる町会長、市政協力委員、それから事務局から声かけできます、学校関係の校長先生やPTAの方々、地区で活動しているNPOの方々、あるいは、社会福祉協議会、民生委員・児童委員関係の方々など、いろいろな活動の中でいろいろな視点から、お声をかせていただきました。まずは第1回目、網羅することができるとは思いませんけれども、声かけできる範囲の中からメンバーを募って、意見交換会をさせていただきました。

(文入氏)

2地区からの意見交換会への働きかけというのはよく分かりますけれども、では、12地区長さん全員が、意見交換会があることや、開催するならば開催できる、ということはご存知なわけですね？

(向後専門監)

今回は、開催しております地域のしくみづくり検討・検証懇談会の中に、地区長が3名いらっしゃいますので、まず、その3名の方から地区で声かけできる範囲でどうでしょうか、ということで、まずは、その3地区から始めようという経過がございました。手始めとして、活動が現在進行しております、小金地区や馬橋地区の2地区で開催したということでございます。

(文入氏)

では、この情報は、全地区長がご存知というわけではない、ということですね。

(向後専門監)

全地区長に、お声かけしております。取り組みができるところから始めるということで、始まったわけでございます。全地区長へご案内済みでございますし、できるところがあれば広めていきます。

(文入氏)

はい。分かりました。

(向後専門監)

ありがとうございます。

改めまして、皆様、第4回の「地域のしくみづくり検討・検証懇談会」を始めたいと思います。よろしくお願ひします。始めに、市長から、今回最終回の懇談会でございますので、ご挨拶を頂戴できれば、と思います。

(市長)

おはようございます。今日が最終回ということで、1年間、いろいろと議論していただいて、ありがとうございます。こうした議論を踏まえながら、松戸市の今後を考えると、地域で自分たちが自立できる、お互いに助け合っていく仕組みというのは、たいへん重要な仕組みだろうと思います。懇談会はこれで終了ということですが、課題自体が重要性をなくしていくというわけではなく、ますますそういう方向へ向かって作り上げていくということが、たいへん重要であろうと思います。今後もまた、いろいろな意味でお力添えをいただければと思います。本当に、4回にわたってありがとうございました。

(向後専門監)

ありがとうございました。今回は最終回でございますので、はじめに市長からご挨拶を申し上げます。どうもありがとうございました。

今回の式次第(1)市長挨拶、(2)経過について ②小金地区・馬橋地区での意見交換会について、こちらまで先に進行させていただきました。座長の関谷先生、恐れ入りますが、(2)①と(3)意見交換に移らせていただきたいと思います。なお、最初に申し遅れましたが、今回、本会議は公開により行っておりますので、ご希望がありました方の傍聴がございますので、ご了承ください。そして、本日の会議は、議事録を作成するために、録音をさせていただいておりますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、関谷先生、(2)①から進めていきたいと思います。

(座長)

はい、分かりました。今日、第4回目の懇談会ということで、これまで議論してきたこと、先ほどご報告があったと思いますが、小金地区・馬橋地区での意見交換会も始まったということで、既に私もそのお話・状況を伺っています。たいへんいい流れができてきているのではないかと、思っているところです。今後どうなっていくのか、多分いろいろな状況があるとは思いますが、今日は、次第の(2)①市民自治検討事業に関する議会の意見について、そして、それを踏まえたうえで、今後の地域の仕組みというものについて、今回最終回ですので、改めて皆様からご意見等、頂戴できればと思っています。よろしくお祈いします。

それでは、①議会の意見等について、まず、事務局からご報告をお願いします。

(向後専門監)

それでは、(2)①検討事業に関する議会での意見等について、事務局からご報告を申し上げます。

(平林課長)

これまでの経過につきまして、順次、ご報告させていただきます。まず、前回、この取り組みに対して、昨年3月議会での意見や討論の内容につきまして、ご説明したところですが、ここに至るまでの経過について、説明が不十分でしたので、改めまして、これまでの議会におけ

る経過をご報告させていただきます。

まず初めに、平成22年6月の市長選挙におきまして、現・本郷谷市長が当選いたしました。その際の、マニフェストの1つに、「多様化する市民ニーズにきめ細かく対応するため、地域区分を一元化して、地域自治区とし、全ての政策に対して、1つの地域コミュニティで対応できるようにし、学校を地域コミュニティの中心施設とします」、また、「地域自治区ごとに、地域協議会、まちづくり地域会議を設置するとともに、市民税の約1%にあたる6億円を、協議会やNPOに配分し、地域のことは地域で決める、コミュニティモデル都市を作ります」、というのがありました。このことから、これまでの議会におきまして、数々の質問や意見がございました。たとえば「地域づくりに対しての市長のビジョン」、「現状の課題」、「どこに問題があるのか」、「具体的に、市長は地域のしくみづくりを今後どのようにしていく考えなのか」、「地域のしくみづくりと銘打って拡充するなら、支所に本庁のどの機能を委譲するのか」、「地域のしくみづくりは、本市における必要性・必然性・制度的親和を、どう認識しているのか」といったような本会議での一般質問がございました。また、昨年3月議会での予算審査特別委員会では「町会の連合組織をしっかりとものに広げていき、町会加入促進をするほうが現実的で、松戸市に元々ある地域の特性を活かした仕組みなのではないか」、「予算化の根拠は何か」、「できそうな地区は把握していないのか」、「地域自治区・地域協議会を最終的に求めているのか」、「議会との関わりの強化とどのようにバランスをとっていくのか」等の質問があり、最終的に、前回報告した内容になったものでございます。すなわち、これまで、既存の制度の活用、地域自治区の考え方や方向性、具体的なモデル地区、議会との関わり方等についての質問や討論があり、最終的に、前回報告した結果に至りました。改めて、これまでの議会での経過を、ご報告させていただきます。

次に、平成26年度に向けての予算につきましては、まず、地区内の各種団体が連携を組んでいくための必要経費、1地区の事務的経費50万円、3地区で150万円を要求しており、この3月議会の予算審査特別委員会でご審議をいただいたところでございます。平成26年3月17日の予算審査特別委員会では、「モデル事業として限られた予算を承認するには、一部の市民の理解はあるものの、実施するには時期尚早」、「今ある組織を意欲的に活用すべき」、「協働事業などの制度を活用して、融合性があれば、こういった取り組みも可能である」等の理由により、この予算は認められない、という結果になっております。最終的には、平成26年3月24日の本会議の中で判断がなされ、決定されるものでございます。以上でございます。

(座 長)

前回、議会でどのような議論がなされたか、というお話をいただいて、その意見がどういう文脈、どういう流れの中で出されたものなのか、ということについての補足をさせていただいたとともに、現在行われている議会では、来年度3地区をモデルとしてやっていくという事業費は認められないという方向になりそうだという、報告をいただいたところです。どうもよく分からないのですが、今出ている理由ですと、時期尚早であるとか、あるいは、既存の組織を十分活用していけば間に合うのではないかと、といったご意見・ご理由のようですけれども、それは前回も伺っていた理由です。この懇談会では、地域のしくみづくりにはどんな意味があるの

かという意見交換をしてきましたが、その辺が、今の議会の中ではあまり十分に伝わっていないという印象を今の報告からは受けました。同時に、地域自治区、これは市長の公約の中で掲げられて、地域の仕組みをどうしていくのかということで、今言ったようなお考えをお持ちで、議会でそれをめぐる議論がなされているようですけれども、この懇談会の前に、「地域のしくみづくり検討・検証委員会」で報告書が作られ、さらには、地区長たちにお集まりいただいた「パートナーシップ検討委員会」が開催されてきましたが、その中では、地域自治区という議論については、あまり出ていないと、私は認識しています。地域自治区というのは、諮問のものですから、非常に、一定の行政的な意味合いがあるものです。それと、地域の仕組みとは、1つの考え方としては結びつきますけれども、地域自治区とはまた違った考え方も、もちろんあり得るわけです。それを巡ってどうするかという議論は、市長は一定の方向性をお持ちだと思いますけれども、これまでいろいろな会議へ出席してきた中で、私は、これは段階的に考えていくということになっていたと認識しています。少なくとも大事なものは、この懇談会でもいろいろ議論してきたように、地域のいろいろな立場の方々が、とにかく情報交換をするなど、いろいろな連携の動きを模索していくということで、どんな方向性があり得るのかは、今後いろいろ検討していかなくてはいけないけれども、まずはベースの部分をしっかり作り上げていく議論をしてきたと思います。議会で議論されていることと、市民ベースで議論されてきたことが、少しずれているのかなという印象を受けています。その辺も含めて、皆さんから、今の事務局の報告を踏まえて、ご質問・ご意見等を頂戴できればと思いますけれども、いかがでしょうか。

(榎本氏)

地域の仕組みに関しては、松戸市だけでやっているものではなくて、なぜこういうものが必要なのかと、今いろいろな自治体で出てきています。その1番の大きな原因は、かつてのように「自治会＝地域」ではなくなってきたことだと、私は思っています。たとえば、松戸市は、昭和30～50年代にかけてできた町なので、古い建物があつたり、家賃が安いところがあつたりするなど、いろいろな条件が重なって、独居の方、それから若い方はもちろん、東京で働くために住んでいるといった方々が、なかなか自治会に加入されないという現実があり、「地域＝自治会」ではなくなってきたということ、まず踏まえなければいけないと思います。最近では、震災があり、防災についても、地域の消防団が大事だという認識が前よりも強くなりました。私の感覚で言うと、いろいろな団体が一緒に会える機会はあまりありませんでしたが、馬橋地区の意見交換会では、消防団のいろいろな課題や自治会の加入率の問題なども出ていました。やはり、そういったことを総合的に進めながら、松戸市だけではなく、日本全体で今までの地域の自治会といったものに入らない人たちがたくさん増えている中で、どうやって地域の問題を解決していくのか、ということです。いろいろなことに取り組んでいく中では、やはり、外の風が入らないと、既存の団体は既存の関係をなかなか超えられません。外の風が入って初めてよくなります。例えば、松戸駅の周辺では、まちづくり協議会ができました。今までも、いくつかの団体があり、一生懸命やっていて、自治会も商店街もあつたが、なかなか垣根を越えて手を組む機会ができてなかったのが、実情だと思います。先ほど言いましたように、若い方や高齢の独居の方が自治会へ入りにくい環境がある中、やはり、そういった人たち

も取り込んだ中でまちづくりというのは、市長の公約というよりも、日本全体の問題だと、私は思っています。議会も、そういう捉え方をしていただいて、時期尚早なのか、それとも、今から取り組んでいかなければ、5年後、10年後にもっとひどい状況になるのか、その辺のことをよく考えていただきたいと、私は思います。以上です。

(岩橋氏)

市議会の理解を得られなかったということが、非常に残念に思うわけですが、この賛成と反対の票数差というのは、圧倒的多数で否決されたのでしょうか。その辺を教えてください。

(平林課長)

賛成多数、反対少数でした。

(岩橋氏)

賛成の人もいづらか増えてきて、それで2回目ですから、最終的にこうなったというのは、我々がここで議論してきたことも少しは浸透したという喜びはありますが、まだ圧倒的多数で否決されているということになると、私は本当に理解しがたいし、残念だなという気がします。ですから、今後、懇談会がこれで終わってしまうと、この動きを松戸市全体にどう伝えていくのか。3地区で先進的な取り組みをされて、今の2地区のお話をお伺いすると、この地区では非常に成功しているという風に、私は確信を持てます。その成功の情報を、松戸市で共有していかないといけません。そして、市議会の方にも理解してもらいたいです。ただ、行政で今後どのように進めていくのかということが、非常に重要なところではないかと思います。そして、3地区で取り組んでいくことを、やはり全体として支援して成功事例に導いていかないと、他の地区でもやってみようという手が挙がってこないのではないかと思いますので、今後どうするのかということが、非常に重要な課題ではないかと思います。

私は地区長やそういった立場ではないですが、やはり自分の地区で起こしていくということは、私が委員としてやってきた者として言う立場ではないかと思いますので、そういったときに手を挙げてやってもらえるか、取り上げてもらえるのでしょうか。たとえば、地区の自治会の方と一緒に話をして、「こういうことをやりたい」と言った場合は、どうなるのでしょうか。

(平林課長)

行政として、できる限り連携していきたいと思っております。

(岩橋氏)

そういう場合は、できるだけ進めていく姿勢だということですね。

それからもう1つ、お願いですが、小金地区や馬橋地区で行われる会議に、オブザーバーとして、他の地区の方が参加してもよろしいのでしょうか。

(大塚氏)

特に差し支えないです。

(岩橋氏)

そうですか。では、ぜひ私は参加させていただいて、聞いてきたことを、自分の関係している地区やNPO全体に伝えていきたいと思いますので、その辺の連絡もお願いしたいです。

(平林課長)

分かりました。

(島尻氏)

先ほど、2つの地区の意見交換会の報告をさせていただきましたが、それぞれ一生懸命取り組まれて、高い効果があったのではないかと考えています。この意見交換会の取り組みの内容、成果も含めて、これを松戸市のホームページで市民に周知徹底させたのかどうか、それから市議会議員に対する説明も、どうなされたのかを聞かせていただければ、ありがたいです。

(座 長)

では、事務局からお願いします。

(平林課長)

1点目、ホームページには、まだ載せてございません。それと、議会への説明は、させていただきました。また、その中でも、いろいろなご意見をいただいております。ですから、説明はさせていただいて、お話は十分に聞いていただいたという認識でございます。

(島尻氏)

まだホームページに載せていない、周知徹底していないということですがけれども、ホームページを開設されるという前提でお話しさせていただきます。その場合に、Twitterではないですが、それを見た一般市民の方々からの意見の受け止めは用意されるのか、また、それをどう活かしていくのか、ということをお聞きしたいと思います。

(平林課長)

貴重なご意見としてお伺いさせていただいて、進めていきたいと思っております。

(座 長)

今後、行政としてこの部分をどうしていくのかというのは、なかなか現段階で言いづらいところがあるのかもしれませんが、ただ、この流れといいますか、地域でどういうことが問われているのか、ということについては、幅広い共通する認識が少しずつできあがりつつあり、そういう動きは、今後も、特に地域ベースで進めていくということが非常に大事なつく

るかなと思います。

他に、いかがでしょうか。

(星 氏)

先ほど、手を挙げたところは、今後も支援をしていくというお話だったのですが、地区長が、もし手を挙げて「わが地区が」と言わない場合は、そのまま取り残されるかたちになって、地区間の差が大きくなるのではないかと、という不安を少し感じました。

(平林課長)

そこが一番気にしているところでありまして、12地区の中で差がついていくのは、たいへんいけないことだと思っておりますので、今まで同様、情報を提供していきたいと思っております。もし勉強会や意見交換会を開きたいというのであれば、連携してやっていただければと、思っております。

(星 氏)

その「開きたいと言えば」という前提が、一番不安なところですよ。

(平林課長)

これは、なかなか難しい問題でございまして、こちらから「やってください」と言うのは、あまりよくないと思っております。あくまでも、「こういうことができます、やったらどうでしょうか」と言うことはできますが、「ぜひ開いてください」と言うのは、なかなか難しいものです。やはり、各地区・各地域で、盛り上がっていただくようには、連携していきたいと思っております。

(岩橋氏)

少し追加で、その場合、地区長が反対で、そのほかの人たちが積極的になって「やろう」と言った場合、それは通りますか。手を挙げて「やりたい」と言う条件というか、「地区長が入っていないといけない」とか、そういうことはありますか。

(平林課長)

特に条件というのはないですが、現在、やはり我々が一番直結して、連携をとっていただいているのが、12地区の地区長なので、まずは、地区長にご相談していきたいと考えております。

(榎本氏)

私は全部知っているわけではないのですが、やっぱり地区でいろいろ差があると思っております。小金地区のようなところは、この中では、特殊団体だと思えるくらいに、十何年も前からやっています。たとえば、私から見ると、栗山もやっていますし、松戸には、いくつか活発にやっているところがあります。ただそれには、地区長が絡んでいて、私は、地区長がとても大事だと

思っています。先ほど言っていたように、自治会の加入率というのは、全体で6割あるのか、7割あるのか、正確な数字は分かりませんが、地域によっては、地域でまとまって何かをやるのが、なかなかできないという地域もあると思います。そういったところに対しては、自治会がとても大事だと思って消防団に入ってくれる人や、自治会に加入する人が増えているなどといった、いくつかの成功例を見ながら情報を流すこと、それから、松戸市は門戸を開いて、いつでもそういう人たちを待っているということを伝えていくことが大事です。若い加入者が少ないといった課題もありますが、その中で、皆で進めていけば、他の人たちの自治会への見方も変わると思います。私は、いつも自治会にお世話になっていますから、よく分かりますが、中には、独居の方などは、そういった情報がまったく分からない方もいます。やはり、いろいろな情報も交換するし、そういう方々とも連携する、という形でやっていただくことが必要です。

私は、この2つの会議に出て、すごく前向きな話を聞きました。今年は予算が取れなかったけれども、いろいろな会議や地域で行っているものに参加する中で、あんなに行政の人たちが一生懸命やっているのを、私は初めて見ました。だから、やはり行政の人たちは、予算が取れない中でどうやって進めていくかということ、地区長や市民の方々と相談しながら醸成して行ってほしいです。「時期尚早」と言われた方々には、時期尚早ではなくて、今くらいから備えなければ、5年後、10年後の松戸市はどうなるのか、という意識を持ってもらったうえで、醸成するやり方や戦略を練って、皆さんに周知させ、どんどんそうした意識を広めていただきたいです。

(荒 氏)

この「しくみづくり」は、足掛け3年ほどやって参りまして、その中で、プランを作って提案しました。その提案は、皆様にお認めいただけなくて、実際に施行することが難しくなったという中で、実際に先行モデルとして、3地区でなさったうちの2地区で、特に、小金地区での取り組みというのは、交流会だけでもかなりの成果が感じられました。やはり、プランだけで評価していただくものではなくて、プランと小さなモデルでもいいので、PlanとDoをひっくるめて見ていただいたうえで、ご判断をしていただかなくてはいけないと思います。実は、モデル事業だけでは、実際のところ、どうなのか分からなかったところもあったのですが、交流会に参加してみたら、「こんな風なのか」というのがはっきりしてきましたし、それぞれに実績をお積みになっていることが分かりました。ただ、自分のところだけでは、課題を解決できないことがあったりするので、地域の皆さんの中で、お互いにまずは参加してみる、それから関わってみる、そしてお互いに連携したり協力していく、というようなステップをだんだん作っていきけるのではないかとこの感触を、意見交換会の中でつかめました。だから、そのようなところを、これから計画だけではなく、セットにしたものをお示ししながら、地域づくりというものを考えていくことはできないだろうか、というような気づきでした。

(座 長)

議会から出ている意見等々について、もし意見があれば、それを先に伺って、今後この動き

をどうしていくべきかという意見についてございましたら、最後、残りの時間でお預けいただくという風にしたいと思います。まず、議会からの意見、先ほど事務局からあった報告について、ご意見・ご発言等がございましたら、お願いいたします。

(文入氏)

先ほど、12地区長全員に、この交換会についての情報が平等に届いているということでしたが、小金地区は2回目、それから馬橋地区は1回目が行われたわけですけれども、今後はどの様なかたちになさるのでしょうか。同時に、予算がどの様なかたちになるのかということが絡んでくるかもしれません。それともう1つ、意見交換会の中には、一般市民の方が入っていませんでしたが、地域での声かけが、団体だけでなく一般市民に対してもなされていたのかどうか、というのをお聞きしたいと思います。加えて、意見交換会が地区長の主導によってとか、思いによって開かれるため、地区どうしのバランスをとれないということに、非常に引っかかる部分があるのですが、市政協力委員連合会としては、今後の意見交換会について、どう思っているのかを、この場でお聞きしたいと思います。

(座長)

まず、今、来年度はモデル地区の予算がつかない方向でいるようで、小金地区・馬橋地区では既に会議が開催されています。今後どうするかという部分、個人単位での参加がどうなっていくのかという点、それから市政協力委員との関係が今後どうなっていくのかということについて、大塚氏、いかがでしょうか。

(大塚氏)

私は、まちづくりを12年前からやってきましたが、当時の町会は動きませんでした。今は、12地区あって、町会があるわけです。これは、皆が同じ立場ではなく、温度差が結構大きいんです。そういうことからすると、全体にやってもらいたいというのがありますけど、持っていく方が難しい。まず、12地区の地区長が納得することが大事です。9月に、いろいろな地区をまわって話を聞いたのですが、各地区によって、問題の捉え方や課題が違います。その中で、松戸市の全体の行政に対する考え方で、「こういう問題がある」ということが、いくつかの地区から出ました。これを集約したかたちのものを、地区長会議に報告して、それを行政に申し上げるといったことは、今までの地区長会議の中ではなかったのですが、去年の4月から私が就任し、行政に対して地区から提案できるように、地区長会議を変えました。そうしないと、何のための会議か分かりません。今度の問題も、予算が通らないという話を聞きましたが、12地区内で問題を抱えている中で、どういった原因で、しくみづくりについて予算がつかないのかといった内容を、もう少し聞いたうえで、それに対する、われわれの考え方を出します。そういうかたちでやらないと、まとまっていきません。

少し戻りますけれども、榎本氏から話があったように、町会に入らない人もたくさんいます。一人暮らしのアパートの住民は、だいたい昼間いないですから、必ず夜もお邪魔したりしていますが、なかなか難しい。具体的な例で言うと、小中学校のPTAにとって、地域とのつなが

りというのは、ほとんどありませんでした。ところが、小金地区が変えたというのは、地域と学校の生徒との接点を作ったということです。そのために、12年かかっています。だから、今は時期尚早、なんて話がさっき出てきましたけど、これから15~20年かけてやっていくというのは、もう論外です。その辺の考え方が、ずれている。これをどうやって、議員に説明して納得させるか、これは行政の役目もありますけど、われわれの役目もあります。そういう事をきちんとしないと、20年、30年経ってやりましょうというのは、ここで議論する話ではないです。われわれが、いろいろなまちのことをやってきている中で、確かに予算がないのはあります。例えば、1つの会がもらっているのは10万円余りです。それで、年間で1,000万円近いお金を動かしているわけです。個人に対して「こういうことやるので、賛同していただきたい」とお願いするかたちで進めてきているのが、実態です。だから多少なりとも、行政の中で支援をしてくれるものがあって然るべきだ、という考えを持っています。しきりに行政のほうに訴えていますけれども、なかなか話が通らない。先ほど、平林課長から話がありました。私はある意味、実態をつかんだうえで、議会への説明が、まだ足りていないのではないかという気がします。それと、少し感じているのは、今いろいろやっている中で、さっき防災についてです。「発生から3日以降のことについては行政が前向きに、自分のところでやります」ということですが、72時間が問題であって、これをどうするのか。「3日間は、地区の自治に任せます」というのは、違うように思います。われわれも素人ですから、やっぱり専門家を呼んでいろいろと聞きながら、阪神、中越、それから今度の東日本のデータを、今集めています。それで、松戸の地域に合ったかたちのものを組み立てようというのが、われわれがやっている地域の役割です。それを応援するお金がないという話になってしまったら、本末転倒ではないかと思います。一番大事なことについても、今言った高齢地区だけでなく、地区会の中でも、それを立ち上げてまとめようという話で、昨年そういうものを作りました。だから、全体の話をするのは難しいので、とりあえず一番必要なもの、防災や防犯関係など、一般市民に最も関係ある部分から入っていこうということで、今考えています。これを地区長会議の中で話しあい、町会全体に広めていこうというのは、そういう組織の中で一番活かせる内容です。そういうものから入って、まだ完全なものではないですけれども、意見交換をしながら組み立てていく、という段階に来ています。これは、市・地区社会福祉協議会にも関係ある部分です。一緒になってやらないと、地域全体の災害時における、身体障害者やお年寄り、それから子供たち、こういう人たちをどういう形で、避難場所まで連れて行くのかなど、いろんな問題があります。これを全部、地域に任せられては、皆ボランティアでやっているわけですから、お金も掛かりますし、限界があります。だから、そういうことを認められないような話になってしまったら、どうしようもないです。それと、今聞いている中で、私が思ったのは、市で認めている、団体へ出している補助金があります。それを一回、見直していただだけませんか。必要なところと、活動している団体の中身がどうなっているのか。新しく必要なことをやっていこうという時に「時期尚早」なんて言われては、先に進まないです。行政も、その辺も少し調整してほしいと、感じています。

(座 長)

ありがとうございます。では、恩田地区長も。

(恩田氏)

馬橋地区としましては、第1回目を開催して、1回で終わるということは避けたいところで、機会を見まして、ぜひとも進めていきたいと思っています。地区の中で、それぞれの団体を踏まえた組織というのは、一番大きいのはやはり、地区社会福祉協議会です。以前は、地区社会福祉協議会の代表は民生委員の方が対応していたと思いますが、民生委員ですと、内容的にどうも偏りがちな部分がありました。私が引き続き対応する中で、やはり地域福祉というのは、町会の皆さんの協力を仰がないといけないということで、以前は、町会の市政協力委員・評議員・理事が、実際は会議にほとんど参加しなかったような現状がありましたが、私に移行されてからは、そういうことも一切なく、町会の方も市政協力委員も参加していただき、地区社会福祉協議会の中では、学校関係も加わっています。ただ、消防団だけは団体として、馬橋地区は名前だけで表現というかたちでイベントに出動していただきましたが、消防団は上からの命令で動くため、地区社会福祉協議会の福祉の関係で消防団が入るのはおかしいということで、辞退の申し出がありました。しかし、地域のしくみづくり意見交換会では、第1回目にも積極的に加わっていただき、問題・課題等、話し合っていました。ですから、組織の中で、地区社会福祉協議会に入れなくても、しくみづくりの中には加わって対応する、という団体が出てくるのではないかなと思います。地区社会福祉協議会は福祉をメインで進めていましたけれど、地域のしくみづくりについては、団体が抱えているいろいろな課題を共有し、お互いに協力しながら、問題点を改善できるのではないかなということで、地区としては続けていきたいと、思っているところです。今のところ、団体が主流で、大きな組織の中では個人参加も今後の課題ですが、町会をベースに、いろんな団体にも大いに呼びかけていきたいなとは思っています。

(座 長)

ありがとうございます。

時間も限られておりますので、議会等から出ているご意見等について、私なりに一言だけ申し上げておきたいと思っています。事務局からも、いろいろ議会へは説明等なされていると思うのですが、おそらく地域のしくみづくりを巡る本格的な議論は、まだ議会でもなされていないのではないかと、という印象を受けます。というのは、これはどのように進めていくかにもよりますが、例えば地域のしくみは、地域自治区というかたちでやる、要するに、行政の附属機関を想定した、1つの枠組みです。でも、そういうかたちでいくのか、それとも、いろんな立場の地域住民の方々が、一定の協議会を作って、原則は住民の自主組織であるとして、それと市がパートナーを組んで、いろいろなテーマについて協働でやっていく方向性なのか、これは実は、似て非なるものであって、どのような方向で行くのかというのは、私はまだ議論を重ねていく必要があるのではないかと、思っています。ですから、議会で、地域自治区というのは全部パッケージにして議論していくということで、批判が出ているのかと思いますし、その部分

はもう少し、議論としては開いていくというのも、1つの進め方かと思っています。これは、市長がどのように考えているのかということにもよりますから、あくまでも私の一個人としての発言ということで、お聞きいただければと思いますけれども、あまり先を固めすぎてしまうと、今の段階からの議論の歩みというものに、少し支障が出てきてしまうのではないかと。ですから、今後どうするかは、少しオープンにしておいて、ただ、どんな立場であっても、どんな方向性を目指すにしても、皆さんのご意見でもあったように、地域でいろいろな方々がお互いに、現状を確認し合っていく、団体の情報交換をし合っていく、不足するならそれを補完していく、あるいは、地域と行政との関係も、従来どおりがいいのか、もうちょっと別なカタチがいいのか。先ほど大塚氏も、補助金の見直し等も含めて考えたほうがいいと言っていましたけれど、そういったことも含めて、どのような関係・連携を作って維持していくことが必要なのかというところを、地域ベースで考えていく必要があると思います。私のモデル事業の位置づけは、方向性はオープンにしておく、けれど、いろいろな立場の地域住民の方々が、まずは地域で、意見交換を重ねていく。今、小金地区と馬橋地区で始められたような、そういう場を今後作って、いろいろな議論を重ねていく。その中で、どういった組織、方向性で歩めばいいのか、という辺りも見えてくると思います。そういうことも含めて、あまり先を固めすぎずに、これまで話も十分ではなかった、横の意見交換というものを重ねていくことが必要なのではないかと思います。そういう部分に限定をして、モデル事業を位置づけるのであれば、私は、議会と執行部の間での一定の合意というものができるのではないかと、個人的には思っています。まだ議会も閉じてはいませんから、その辺については少し、ご検討いただければと思います。ですから、そういう意味で、「時期尚早」というのはどういう文脈でおっしゃられているのかが、少し分かりませんが、先を全部、地域自治区で固めて、全部パッケージで、1%分の6億円ですか、というものも地域で配分して、地域で自由に検討していただく。これを最初からいきなりパッケージでやってしまうと、それは確かに時期尚早かもしれません。だから、それはオープンにしておいたうえで、今後、どのように地域の基盤を固めていくか、皆さんがおっしゃったように、今後どんどん厳しくなっていく状況の中で、地域の基盤をどう固めていくのか、その一歩として考える。そのように限定したカタチで、ぜひ議論していただいて、その後の話は、とりあえず置いておくといいのではないかとというのが、現段階での判断の仕方と思っています。そういうことを踏まえたうえで、残りの時間、オープンに意見交換したいと思います。よろしくをお願いします。

(文入氏)

この懇談会の中では、検討委員会のときもそうでしたが、地域自治区ということについては、何も検討しませんでした。ですので、その辺のところを、人との直結と捉えられていたのではないかと懸念を、やっぱりしています。それと、消防団の話もありましたが、私は社会福祉協議会として、地域によって、医療機関が入っていたり入っていなかったりとか、そういった差はありますけれども、あらゆる団体を網羅して、組織を作っているわけです。その中に、私としては、ボランティアというカタチで、個人でも入れるようにしたい、という希望がずっとありました。しかし、地区社会福祉協議会の中では、その行事や対応などの事業展開は検討

されてきましたが、あらゆる組織を統括した評議委員会の中でも、団体が抱えている状況、あるいは課題等の、意見交換会というものは、なかなか開かれてきませんでした。そういう意味で、私は、地域の意見交換会に、非常に期待しているわけです。できるならば、これはトップの意向に関わらず、本当に全地区で開催されてほしいと思っています。そこで、「意見交換会をした」ということだけでは、正直なところ成功ではないです。意見交換会の中では、「ここが素晴らしい」と認め合って、誇りを持てるような組織からも、課題は見えてくるわけです。その課題に対して、全員で話し合いながら検討し、大方の意見をいただきながら、解決へ向けていくということまでいってほしいです。そういうことを考えると、やはりこのまま、議会で否定されてしまい、予算がないというようなことで、閉じてしまいたくはないです。それをどうにかたちにするのかという、知恵の出し合いですけれども、どうすればそこへ結び付けるのかなと思います。議会にすぐ反映されるということまでは、なかなか難しいと思います。

(榎本氏)

私は、連絡協議会というのをやっていて、これは今から20年位前になります。そこでは、やっぱりネットワークが大事で、あまりご負担になるような関係だと、なかなか長続きしないです。会を運営するうえで、あまりお互いの負担にはならず、たとえば、会全体でやることと、その中のいくつかの人たちがグループでやることも含めて、有機的にいろいろなものが動けるといえるものが望ましい。「自分たちはこれだけ活動しているのに、まちづくりのために、ここでもほかの事をしなくてはいけない」と思われてはいけないので、一番大事なのは、それぞれの団体の方にとってのメリットを何か提示して、戦略的に、その辺のところを運営側はどう仕掛けていくか。さっき言ったように、いくつかの成功体験を積んで、あまり負担はかからないけれど、ここに出てきたおかげで、たとえば消防団員が3人くらい新しい人が入ってくれたとか言えば、消防団員の人は喜ぶわけです。そういう話を聞いた人が、「町会長がそんなことまでやっているなら、自分たちも協力しなくてはいけない」と思うかもしれない。とにかく、実際の一番の大筋は、座長が言われたような話で、ソフトにして、将来を固めないということで、皆でやりながらいろいろ固めていくというプロセスと、それからやはり、皆に「そんなに負担じゃないけれども、ちゃんと自分たちのメリットもあるし、まちの役にも立つ」というような見せ方をどうやってするかが、私は一番の問題だと思っています。これが、小金地区はずっとやってきているからできていますけど、他の地域でこれからやっていくとなったときに、どこまでいけるか。私は、馬橋地区はできると思っていますし、小金地区もできると思っています。その辺の具体的な戦略を、誰がコントロールするのも含めて、1%の6億円に対して、いろいろなことを言う人がいるけれども、私に言わせれば、無責任な話ではなく、それだけきちんと、お金のことも含めて担保しますよ、という意味だと捉えています。ですから、そのことについてあまり違和感はありませんが、お金の多寡はあったとしても、先ほど大塚氏が言われたように、何かを発送する、それから事務局の何かをまとめるとかも含めて、何かやるには全てにお金がかかります。それを今まで個人が負担してきたのですが、そうではないことも含めて、私からすると、議会の方にも、この会の傍聴もそうですけれども、地域の会議にも出ていただいて、皆さんの言葉を肌で感じていただき、その中で判断していただきたいです。以上です。

(岩橋氏)

私は、今の皆さんの意見をお伺いして、やはり関谷さんの言われていたように、できるだけいろいろな地区で意見交換会をスタートさせていくということが、非常に大事なのではないかと思います。小金地区の場合は、単なる意見交換会だけではなく、その次のアクションが生まれてきていることが出てきていましたけど、ダメだと言われている地区でも、このような話し合いの場を設ければ、その中から「そのような訳であれば一緒にやろう」という意見が出てくる雰囲気が、どの地区にもあると思います。ですから、私の関わっているところでも、地区での意見交換会を推進するための活動をしていきたいと思っています。市でも、推進のためのご協力・バックアップをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(荒 氏)

私は、若者や子育て中の人たちが地域への帰属意識がないことが、とても大きな課題だと思っていますので、そういった若者や子育て中の人たちが目を向けるような仕組みを作ることに、力を入れて取り組まれるのを、とても期待してここに来ていました。3年かかったけれども、若い人たちに、地域に関わるのが自分にとってどんな意味があるのかを、うまく伝えることができる話し合いの場が見つからなかったことが、残念なところです。手前味噌なご報告をさせてください。前にも時々お話ししていますが、私どもは、0歳から18歳の子供たちが集まる、野菊野こども館を運営していますが、そこが、東葛地区のまちづくりの交流会に参加いたしましたして、大賞をいただきました。それは、こども館の取り組みが、カプセルのような施設だけの閉じたものではなく、野菊野地区の中で、地域のたくさんの子供たちが、たくさんの人に見守られて、育てられている、そういった取り組みを発表して、賞を受賞するのに10年かかりました。先ほどお話にあった、一朝一夕にできないため、こども館のイベントや地域の取り組みであるイベントに、まずはお互いに少しずつ参加する、それから次に、お手伝いをしたり、汗をかいたりしながら、少しずつ関わっていきました。その中で、「うちはこのような課題があり、こんなことをしていきたい」ということをお話しして、連携したり協力したりしていただけるような関係ができてきた取り組みを、野菊野地区でしました。その中では、子育て中の方や大学生など若い方も、すごく参加してくださいました。きっかけは何かと言うと、自分たちが楽しいから、面白そうだから関わることで、初めから負担になるようなことで「おいでよ」と言うことはしておりません。このような地道な積み重ねを、あちこちでやっていると思うのですが、それを、皆が意見交換会などで情報を交換して、そして、もっと地域に、子育て中の人や若い人たちにも情報を伝えていく、そして意見交換会といった場をまた設けていくことを、もっとしていかないと、子育てをしている人が、10年経ったらいなくなってしまう。「あっちの水は甘いよ」のような声に惹かれていく世代、ということをお伝えしたいです。

(文入氏)

情報を発信することは、本当に大事だと思います。社会福祉協議会は、正直なところ、その部分がまだ不足していると思っています。たとえば子育ての関係も、子育てサロン等はかなりの年数を抱えていて、その地域では通知されていますけれども、これもやはり、一定の人たち

への通知なのかもしれないことが、懸念としてあります。ですので、それについても本当に正しく知っていただいているかどうか。地区社会福祉協議会に関係している方が、評議委員会の組織に留まっていないか。もちろんふれあい広場とか、多くの方々に参加していただいているところはありますけれど、ふれあい広場が社会福祉協議会の事業だということを認識されずに参加している部分もあります。いろいろなかたちで、どのように情報を伝えるのが、非常に大事だと思います。やはり、知ってこそ理解をされるし、理解されれば、当然のことながら注文もされるし、課題も出てきますので、そのようなところを期待しています。

(大塚氏)

この会を何らかのかたちで残していくのは、お考えになっていないのか。われわれとしても、「こういうことをやっていきたい」ということで、ある程度の方向性だけはまとめた。せっかくこんないい機会ですから、これをどういうかたちで松戸市の行政の中に反映していただけるのか、ある程度まとめたほうがいいと思います。

(岩橋氏)

大賛成です。

(大塚氏)

このままでは、何のために今まで4回やったのかと困ってしまう。いろいろな話が出ているけれど、やっぱりこの会の存在がこれからどういうかたちで引き継がれていくのか、この辺をお考えいただいたほうがいいのではないかと、思います。あと気がついた点として、この会議には教育関係がほとんど入っておりません。それは少しまずいです。教育委員会にいろいろ話をしてはいますが、そういったかたちでの会話がほとんどないです。今、教育委員会が何を考えているのかをわれわれに多少なりとも、総論的なものでいいですから、情報として入れてもらえば、こういう中で、皆で組み立てていく材料になります。2、3日前にも自治会で話をしましたが、そのような大事なところが、少し足りていないと思います。今、子供の問題、幼児の問題、高校生の話もいろいろ出ていますから、関係する人たちに、まちづくり・しくみづくりの中に入れてもらうことが必要ではないかと思えます。

(座長)

ありがとうございます。

(岩橋氏)

先ほども少し言いましたが、要するに、地域のしくみづくり検討・検証委員会と懇談会を3年やってきて、最初は皆本当にいろいろ議論して、そしていい方向にまとまって、提案するところまでできました。この会は、いろいろな地域の団体の方が集まってやっていた会です。ここから非常にいい成果が得られて、それが今、小金地区と馬橋地区といった地域に下りていっているところです。これがうまくいっているの、私は、この会をこのまま終わらせるのではな

く、このようなかたちで、各地域で開催していく方策を検討していただければと思います。

(島尻氏)

今、大塚氏の意見を聞かせてもらって、大賛成です。1点目は、これまでの懇談会で、組織の意見交換をずっとしてきたわけですが、そこから問題点や成果を浮き彫りにして、整理していく、特に議員のほうにそれを訴えていくことが大事なのではないかと思います。議員から「時期尚早である」というご意見が出たと聞いていますけれども、私の見方が正しいのかは分かりませんが、私の見方をお話しさせていただきますと、こうして傍聴されている議員が、どういう気持ち、お考えで来ているのかと受け止めたときに、私は、議員はこのことについてもっと前向きに受け止めていこうと、具現化する方向で力添えをしてあげようじゃないか、というお気持ちを持っているのではないかと思います。ですから、「時期尚早」という言葉の背景には、議員として、また市議会として考えていることについての要件が、まだクリアされていないのではないかと受け止め方をされている。別の言い方をすれば、条件をクリアするだけの十分な情報を提供してくださいと、理解が深まるような手立てをとってくださいというようにお考えになっているのではないかと、私は受け止めています。「時期尚早」ではなくて「時期が来ましたよ」となるようにしていくことが、とても大事ではないかと思います。この努力は、このメンバー内でもしていかななくてはいけないし、市の担当にも努力をしていただきたい、していく必要があるのでは、と思います。文入氏も、そのために全地区が意見交換するような方向で手助けしていく、考えていくこともとても大切です。教育関係の話が出ましたけれども、やはり地域との連携は、学校も一緒になっていかななくてはダメだと、かねがね思っています。前回、欠席して申し訳なかったですが、その前の会でも、やはり学校は地域の方々からの働きかけを待っており、地域からの働きかけがあれば、具体的な行動を取ることができます、とするためには、教育委員会との連携・承認等々も得なければいけません。それからPTA組織があるところは、PTAとの関係も知っておかなければいけないわけですが、そのようなところも踏まえまして、やはり教育関係が関わっていくことが大事なのではないかと思います。その具体的な方法として、教育委員会という言葉が出ましたが、私は、具体的にはやはり、全ての学校の校長先生に働きかけ、校長先生だけでは意見が割れてしまう可能性もあります。まずは、小中校長会の会長に話しかけて、それから打診していく、協力を依頼していくという方策も、考えられるのではないかと思います。話がまとまりませんが、大塚さんがお話しされたことについては、全面的に賛成し、ご協力できればしていきたいと思います。

(大塚氏)

ちょっといいですか。今の話の中で、昨日、学校関係者と話しました。今、花を媒体としたいろいろなことを、町の中で展開していますが、そしたら、学校には予算が無く「シャベルも買えない」と言っていて、地区社会福祉協議会には費用がなくて大変なのですが、でも何とかしようと。こういう無いものだらけの中で、今いろいろ動いていまして、何かどこかから、そういう費用の一部をどうにか捻出できないか、という話が昨日いろいろなところで出ていました。子供たちがやりたいけれど、シャベル1つ無い。学校に言っても「そんなお金無いです」

と言われたので、うちで考えようと。そういう1つの事例を挙げると、いろいろな細かいことですが、そのようなことから既に動きの中で足りないです。だから、これから動いていくところに、「何も無い」というのでは、どうしようもない。一度、地域での活動の中で、今は何が必要で、予算が適切についているのかを検証していただきたいです。昨日、そういう話が議論の中で出てきましたので、少しこれは考えなくてはいけないことです。地域の中で考えますけどね。

(文入氏)

ちょっといいですか。今までもずっといろいろな意見交換してきましたが、本当にきちんと情報発信されているかが、すごく大事なことです。というのは、今日の意見交換の中にも、先入観がものすごくいろいろありますので、「あの地域はやっていないのではないか」「この地域はよくやっている」とか、そういう先入観は、全てのことについて多分あるだろうなと思います。そこを意識することが、また大事だと思います。

(星 氏)

予算が無いことですが、これから意見交換をするにあたって、その会場費・資料・通信費といったものは、どこから出ていくのでしょうか。私は、50万円の根拠を知らないのですが、すみませんが教えていただければと思います。

(平林課長)

今後、予算が無い中で、会場費や資料代などは、公共施設を使えば公用として無料になります。お手元にある資料も、このくらいの人分や、もう少し増えても大丈夫ですが、市に印刷機がありますから、それで賄えます。

(星 氏)

市のほうで、やっていただいているということですか。

(平林課長)

予算が無い中では、市でやるといいますか、現状の事務経費50万円の根拠ですが、50万円というのは、モデル地区が事業を展開する、課題を解決するための予算ではありません。あくまでも、モデルの施行ですから、事務局の運営費というかたちで、例えば、資料を作るまでの紙代、印刷するための複写機、電話代等を経費として考えております。

(星 氏)

予算がある場合は行政ではなく、予算がないので今回はこちらで継続ということですか。

(平林課長)

モデル地区というのは、もう正式にはできません。ただ、皆様のご賛同とか「うちは開きた

い」と言った場合には、先ほども申しましたけれど、行政が連携をしてやっていきたいという気持ちを持っております。

(座 長)

はい、ありがとうございます。

(平川氏)

やはり、モデル地区につきましては、いろいろ情報は入りますが、やはり、やっていない地区はないと思いますけれども、以前から進んでいる地区で、そういうところを行政でいろいろ協力して、組織を作るための地盤をまず作ることが非常に大事だと思います。私には、そういう意味で12地区全体からいろいろと情報が入りますので、そういった意識が無いところがあるのは、事実だと思います。ですから、この懇談会につきましても、いろいろな団体からいろいろ話がありますけれども、われわれは深く選考して仕事をするほうですから、これくらいの話にさせていただきたいと思います。

(座 長)

そろそろ時間が参りましたけれども、この懇談会が今後どうなるのかは、多分全く決まっていないうか、とりあえずここまでと言うことかと思っておりますけれども、大塚氏をはじめ、こういったことで、地域のしくみをめぐっていろいろな角度から検討していく場は、今後も何らかのかたちで必要かと思われまます。それが今後どのようなかたちで作られていくのか、まだ決まりませんけれども、一応この懇談会としては、今後そういう場を作っていただきたいということは、申し上げておきたいと思っております。あと、いろいろな意見を頂戴いたしましたけれども、この懇談会は、必ずしも答申といったものを作るものではありませんから、皆さんの意見をそのまま報告いただくことになるわけです。けれども、全体としてみれば、やはり、広くは地域の基盤を今からしっかり固めていかなければいけない、その中で、先ほど情報の発信・共有という話もありましたけれども、「どのような所でどのような問題があるのか」ということが、知られているようで知られていません。そのようなことも含めて、いろいろな立場の方々がそういったことを共有できるような場を作っていくことが、何らかのかたちであれ、必要になってくると思っております。その中で、行政としてどのような支援をしているのか、あるいは、地域住民の方々が会費なり自分たちでお金を出し合っているのか、これが混在するかたちで、いろいろな取り組みをやっていると、いろいろな意味での限界が出てきている現状がある。もちろん住民が行政に依存するだけではなくて、自分たちでいろいろなことを仕掛けていく、お金を出し合っていく、人材・リーダーを輩出していく、といったことを地域ベースでやっていかななくてはいけない部分がある。もちろん、他方では、行政が地域との関係というものを改めて今後どうしていくのか。その中でどのような支援をしていくのか。それはまた事業ベースなのか、また違ったかたちなのかなど、いろいろあるところだと思います。さらに、先ほど補助金の話も出ましたが、従来型の補助金制度を続けるのがいいのか。最近全国を見渡すと、いろいろな自治体で、分野別・団体別に補助金を出していくことはやめようという流れもできている

くらいです。それだけ財政状況も厳しい中で、もう少し横の横断をするところに、むしろお金を支援していくというかたちにしないと、補助金を出してもなかなか成果につながらない。そのような問題意識のもとに、見直しを図っていくところで、それは、松戸市内で今後どうしていくのか、そのような議論にも関わってくると思います。それから、今回の議論には出ませんでしたけれども、一方では、協働のまちづくりを、松戸市も率先してやってくるわけですから、そのような部分でも、今後の回し方を模索していく必要があると思いますので、行政と地域との関係をいろんな角度から見直しを図りながら、どのような支援の仕方がいいのかということです。そのような意味で、地域住民ベースでやる部分と、それから行政との関係でやっていく部分とを、立体的に考えていく必要があると思います。あとは、先ほど申し上げたように、あまり先の形を固めすぎると、今の議論が非常に硬直してしまうと思います。執行部と議会との政治的な駆け引きの部分も、バックボーンにあるのかもしれませんが、要するに、政治的駆け引きの道具にすべきではない、ということです。そういったものは別の部分に置いて、どんな方向性であれ、地域のベースを固めていくことが不可避の動きだと思いますし、それは時期尚早どころか、今からやっていかないと間に合わなくなるという、それぐらいの状況に、今あるのではないですかということ、最後に改めて申し上げておきたいと思います。ですから今後、少なくともこの懇談会では、緩やかな方向性は共有できたと思いますけれども、それぞれの方々のご発言の中には、もう少し具体的な部分、たとえば地域ベースの中で教育をめぐる連携のあり方をどうしたらいいのか、防災体制をめぐるかたちをどうしたらいいのか。それぞれの地域が置かれている状況も違いますし、組織体制のあり方、それから積極的・消極的、いろいろな差があると思いますけれども、それぞれの地域の状況の中で、そういった問題を具体的に考えていかななくてはいけない。ですから私は、そのような意味でモデル事業を位置づけ・率先させていくべきなのではないかと思っていました。いずれにしても、地域ベースで具体的な話し合いをしていく。先ほど、モデル事業はつかないけれども、限られた予算の中で、事務局としても支援していく話がありましたけれども、お金が無い中でも、小金地区や馬橋地区のように、いろいろな方々が集まって話し合いをしております。その中でいろいろなやり方をして、どのようなことが必要なのかを議論していくことは、仮にお考えでなくても、少しずつ進めていける部分があるかと思います。ぜひ、そういう動きとして、決してここで止まらせず、今後も繋げていければということ、最後に申し上げて、この会を閉じさせていただきたいと思います。

(向後専門監)

ありがとうございました。今回で、この懇談会は終了ということになりますけれども、最後に市民部長からご挨拶させていただきます。

(市民部長)

どうもありがとうございました。地域のしくみづくり検討・検証懇談会ということで、1年間、4回にわたって貴重なご意見を頂戴しました。ありがとうございました。1年間の懇談会が終わるということですが、先ほども説明申し上げましたが、なかなか理解を得られな

い事業だったということでございます。私どもも、その方法について、それぞれ反省点があったところでございます。また、今回、小金地区と馬橋地区、そして本庁地区も予定していましたが、意見交換会が一部始まったことで、ここに至るまで足掛け4年、本当に長くかかってしまいましたけれども、市民の方から一部理解を得て、活発な意見交換会が始まったというのは、一定の成果と捉えております。市民の方から見れば、最初皆さんに説明したときに、「行政のことを市民が肩代わりしているものなのではないか」といったご意見も一部ありましたが、説明していく中で、だんだん理解が得られてきたと思います。私どももそんな気は全くございませんので、この制度を深めていく、進めていくにあたりましては、市が今まで以上に、もっともっとたくさん努力をしていかなければいけない制度だということは覚悟しております。しかし何よりも、市民の皆様にとって、よりよい方向に変わる制度だということを信じて、この数年間やってきたわけでございます。今後とも、新しい制度、予算はどうなるか分かりませんが、最終日、討論を十分に聞きながら、私どもは「これで終わり」ということではなくて、できる範囲内で、状況に合った活動をこれからもっともっと進めていく覚悟しております。皆様には、今後ともいろいろとご指導・ご協力等いただきたいと思っております。ぜひ、今後ともご指導のほう、よろしく願いいたします。1年間、その前の会から続いている方もたくさんいらして、いろいろと骨を折っていただいて、大変な苦勞があったと思います。本当にありがとうございました。お世話になりました。

(向後専門監)

ありがとうございました。以上をもちまして、第4回、そして今年度の「地域のしくみづくり検討・検証懇談会」を終了したいと思います。では、どうもお疲れ様でした。